

【国語科・小6・「やまなし」】①

育成を目指す資質・能力

- (知識及び技能) ・ 比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。 (1)ク
- (思、判、表等) ・ 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。 CI
- ・ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 CO
- (学びに向かう力等) ・ 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

ICT活用のポイント

- ・ 学習支援ソフトを活用することにより、思考が整理しやすい。 ・ 個の考えを全体で共有し、容易に意見を交流することができる。

【つかむ】

- ・ 単元のめあてや学習計画を確認する。

単元の課題

作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう。

【追究する】

- ・ 2つの場面の様子についてイラストを使って表し、物語世界を具体的に想像する。
- ・ 資料「イーハトーヴの夢」を読み、作者の生き方や考え方、作品の特徴をまとめる。
- ・ 2つの場面を比べて読み、まとめる。
- ・ 宮沢賢治が「やまなし」という題名にした理由を考える。

【まとめる】

- ・ 自分の考えをまとめて、宮沢賢治が作品に込めた思いについて考えを広げる。

事例の概要

- 「五月」と「十二月」の場面を比べて読んでまとめたことや、資料を通して作者の生き方や考え方についてまとめたこと、「やまなし」という題名にした理由について考えたことなどを視点に、作品の世界観を捉え、自分の考えをまとめることができるようにする。

【事例におけるICT活用の場面①】

- 「五月」と「十二月」の場面の様子を学習支援ソフトでイラストを使って表し、物語の世界を捉える。

【事例におけるICT活用の場面②】

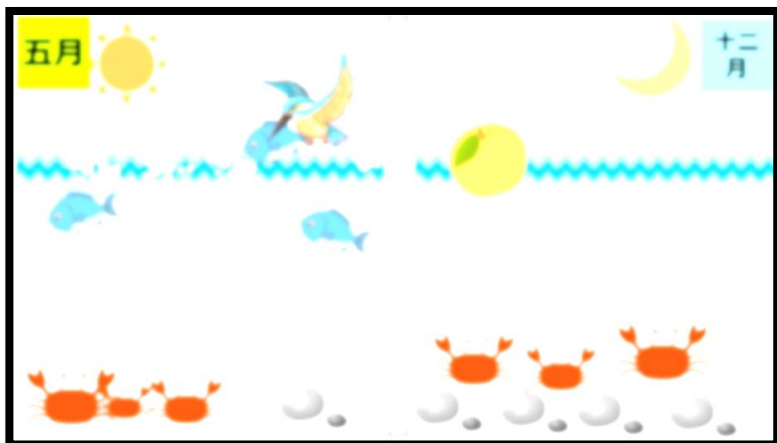
- 「五月」と「十二月」の場面を比べながら読み、学習支援ソフトの付箋を使ってまとめ、対比させる。
- 共有ドライブと学習支援ソフトにデータを保存しておき、既習事項を活用する。

【事例におけるICT活用の場面③】

- 「やまなし」という題名にした理由について、学習支援ソフトのカード機能を使ってまとめ、提出されたカードを全体で共有し、班や全体で意見を交流させる。

【国語科・小6・「やまなし」】②

【事例におけるICT活用の場面①】



物語全体の内容を捉えるために、「五月」と「十二月」の場面の様子を学習支援ソフトを活用して、イラストを使って表した。事前に準備してあった登場人物のイラストを本文に即して、数を増やしたり大きさを変えたりしながら、物語の内容を表現させた。

学習支援ソフトの活用により容易に操作ができるので、短時間で絵に表すことができ、大まかな内容を捉えるのに有効であった。読み取りに苦手意識のある児童も、言葉を手掛かりにして物語の世界観をイメージすることができた。

【事例におけるICT活用の場面②】



「五月」と「十二月」の場面を比べながら読み、学習支援ソフトの付箋を使ってまとめ、対比させた。

まとめたデータは、共有ドライブと学習支援ソフトに保存しており、児童はいつでも学習したことを振り返ることができる。前時とのつながりや、単元全体の流れを意識させる上で、有効である。

【活用したソフトや機能】

- ・学習支援ソフト（データ提出・受信、一覧表示）

【事例におけるICT活用の場面③】



「やまなし」という題名にした理由について、学習支援ソフトのカード機能を使って、まとめさせた。ICT端末を活用することにより、自分の考えをまとめることが苦手な児童も意欲的に取り組むことができた。

提出されたカードは、全体で共有し班や全体で意見を交流させた。ICT端末の活用により、友達の意見をじっくり読むことができ、自分の考えを広げたり深めたりすることができた。